

# I 事業計画

## 基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

また、公益法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、公益認定基準を遵守し、かつ健全で責任ある経営に努めるものとする。

平成29年度は、様々な芸術公演を県民に提供するとともに、文化芸術の担い手を育成するほか、県民の文化活動の拠点である「茨城県立県民文化センター」の管理運営、子どもから大人まで楽しみながら学ぶ海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

### (1) 文化振興事業

自主事業に加え、本県文化芸術のさらなる活性化や優れた文化芸術に触れる機会を県民に提供することを目的とする県の委託事業を併せて実施する。

### (2) 茨城県立県民文化センター

第3期指定管理期間（平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間）の2年目として、施設の適切な管理運営を引き続き行っていく。

### (3) アクアワールド茨城県大洗水族館

有料入場者年間100万人を安定的に確保するため、圏央道の県内区間全線開通に伴う首都圏を意識した誘客促進活動を展開するとともに、より一層の展示・企画等の充実やサービスの提供に努める。

### (4) 財団全体の施設年間利用者目標数

約174万人（県民文化センター利用者数60万人、アクアワールド茨城県大洗水族館総入場者数113.8万人）

## 1 法人運営事業

### (1) 事務局の運営

県から指定管理を受けた茨城県立県民文化センターの管理運営及び財団自らが運営するアクアワールド茨城県大洗水族館の運営及びこれらに必要な付帯事業について、各事業所の意見を集約し調整を図り、県との連携のもと、業務推進の進行管理及び事務事業執行についての指導を行う。また、次の事業を行う。

ア 理事会、評議員会の開催をはじめ、財団の事業計画及び予算等理事会議案の策定を行う。

イ 第4期中期経営計画の進行管理及び進捗状況を検証するとともに、計画達成に向けた対策を行う。

ウ 職員の資質向上を図るため、中期経営計画に基づき階層別研修、各種セミナー及び救命講習等を積極的に活用し、必要な知識の習得に努める。また、ストレスチェック制度の導入に伴い、全職員を対象にストレスチェックを行い、メンタルヘルスケア体制の充実を図る。

## 2 公益目的事業 1（文化振興事業）

### (1) 自主公演事業（主催公演 9 事業，共催公演 18 事業，計 27 事業）

事業を「普及」「参加創造」「鑑賞」の 3 つに区分し，目的・テーマ別に公演を企画・実施することで県民各層の要望に適切に対応するとともに，地域文化の担い手を育成し，県民の文化意識のより一層の高揚を図る。

#### ア 普及事業（3 事業）

本県の有望な若手演奏家に発表の機会を提供し，音楽文化の向上を図ることを目的とした「第 43 回茨城県新人演奏会」を開催する。また，公演の概要・演目等を事前に紹介する講座「楽しむ会」を公演に合わせて開催し新規鑑賞者の開拓と文化芸術の普及に努める。

#### イ 参加創造事業（3 事業）

県内の社会人及び高校生の吹奏楽団と世界有数の金管合奏団によるブラスの祭典を開催し，プロの演奏家との交流や発表をとおして地域文化の担い手の育成及び活性化を図る。また，登録アーティストや茨城県新人演奏会出身者等の演奏家を活用した演奏会を開催し若手演奏家の支援・育成に努める。

#### ウ 鑑賞事業（21 事業）

世界一流の優れた舞台芸術を鑑賞する機会を県民に提供するため，「チョ・ソンジョン ピアノリサイタル」，「フジコ・ヘミング & モスクワフィルハーモニー管弦楽団」「キエフ・クラシック・バレエ」等を開催する。また，「松竹大歌舞伎」を開催し，日本の優れた伝統芸能を鑑賞する機会を提供するとともに，県内の公立文化施設と連携を図り県内各地からの鑑賞ツアーを実施し入場者の確保に努める。

さらに，民間プロダクションと協力し，多種多様なジャンルの公演を開催することで県民の多様な要望に応える。

### 【公演計画】

（主催事業）

区分	月 日	公 演 名	会 場
普及事業	7 月 29 日(土)	歌舞伎をより楽しむ会	県文小ホール
	9 月 10 日(日)	第 43 回茨城県新人演奏会	県文大ホール
	10 月 25 日(水)	オペラをより楽しむ会	県文小ホール
参加創造事業	12 月 16 日(土)	新進演奏家支援・育成事業 「ミュージックカフェ・クリスマスコンサート」	県文小ホール
	12 月 17 日(日)	地域音楽活性化事業 「ウィーン＝ベルリン ブラスクインテット」	県文大ホール
	3 月 10 日(土)	新進演奏家支援・育成事業 「茨城県新人演奏会歴代受賞者コンサート」	県文小ホール

鑑賞事業	7月29日(土)	松竹大歌舞伎 (中村橋之助改め中村芝翫襲名披露)	県文大ホール
	12月2日(土)	劇団鳥獣戯画「狂言ミュージカル」	県文小ホール
	1月24日(水)	チョ・ソンジン ピアノリサイタル	県文大ホール
主催事業 計(9事業)			

(共催事業)

区分	月 日	公 演 名	会 場
鑑賞事業	4月23日(日)	中国国家京劇院	県文大ホール
	4月29日(土)	和楽器バンド・HALL TOUR2017	県文大ホール
	5月13日(土)	野口五郎&研ナオコ Special Stage	県文大ホール
	5月20日(土)	谷村新司45 Anniversary Tour	県文大ホール
	5月21日(日)	ゴスペラーズ 坂ツアー2017	県文大ホール
	5月30日(火)	フォレスト コンサート in 水戸	県文大ホール
	6月18日(日)	森山直太郎 15th アニバーサリーツアー	県文大ホール
	6月30日(金)	フジコ・ヘミング &モスクワフィルハーモニー管弦楽団	県文大ホール
	7月22日(土)	ブラスト!: ミュージック・オブ・ディズニー	県文大ホール
	7月25日(火)	キエフ・クラシック・バレエ 「チャイコフスキー夢の3大バレエ名場面集」	県文大ホール
	8月19日(土)	WAHHA本舗「ラスト～最終伝説～」	県文大ホール
	8月26日(土)	加藤登紀子百万本のバラコンサート with 東京ニューシティー管弦楽団	県文大ホール
	9月1日(金)	植村花菜スペシャル・コンサート	県文大ホール
	9月26日(火)	葉加瀬太郎コンサート	県文大ホール
	10月8日(日)	東西落語名人会「桂文珍 春風亭小朝」	県文大ホール
	10月15日(日)	杉山清貴 acoustic solo tour 2017	県文小ホール
	11月23日(木)	市川海老蔵・特別公演 2017	県文大ホール
3月	よしもとお笑いまつり	県文大ホール	
共催事業 計(18事業)			

※ 会場欄の「県文」は県民文化センターの略。

## (2) 受託事業(8事業)

### ア 文化芸術創造・発信事業(6事業)

本格的で質の高い海外の舞台芸術を鑑賞する機会を提供するため、東欧を代表する名門劇場「ハンガリー国立歌劇場」によるオペレッタの最高傑作『こうもり』を上演する。また、将来の文化芸術を担うアーティストの育成を図るため、茨城県新人演奏会出身の演奏家とプロの管弦楽団のメンバーで楽団を編成し、クラシック音楽の楽しさを伝えるコンサートを無料で開催する。

さらに、県内の小中高等学校に対して音楽・美術・伝統文化等の分野でアウトリーチ事業(110校)の実施やアートマネジメント講座、茨城国際音楽アカデ

ミーコンサートを開催し、文化芸術の普及と次世代の文化の担い手の育成に努める。

イ 文化プログラム推進事業（2事業）

東京オリンピック・パラリンピックの際に行う本県の文化振興のモデルとなる事業を公募する「県民企画公募型事業」と、本県出身等の様々な分野で活躍する芸術家を講師に迎え、小中学生を対象としたワークショップをとおしてトップクラスの文化芸術に触れる機会を提供する「子ども文化芸術大学」の2事業を新規で実施し、本県の魅力を国内外に広く発信していく。

（受託事業）

区分	月 日	事業名	会 場
文化芸術創造・発信事業	通年	文化芸術体験出前講座（110校）	県内小中高等学校
	通年	アートマネジメント講座（6講座）	—
	8月・9月	みんなで楽しむオーケストラ	東海文化センター 鹿嶋勤労文化会館
	10月25日(水)	ハンガリー国立歌劇場「こうもり」	県文大ホール
	3月	茨城国際音楽アカデミーinかさまコンサート	県文大ホール
	3月	茨城国際音楽アカデミーinかさま受講者支援(※)	—
推進事業 プログラム	通年	県民企画公募型事業	—
	通年	子ども文化芸術大学事業	—
受託事業 計（8事業）			

（※）支援対象者は茨城県新人演奏会優秀者のみ

(3) 財団振興事業

各事業所で広報媒体を選定し公演やイベント等の広報を行い誘客促進を図る。

(4) 文化芸術活動への助成

県内各地で行われているアマチュア団体等の文化活動に対して、助成金を交付する。

事 項	内 容
助成件数	59事業
1事業当たりの助成額	50万円以内

(5) 市町村文化施設及び地元演奏家等への支援

県内の文化団体からの申請を受けて後援を行うとともに、広報やマネジメント等で地元演奏家の支援を行う。

(6) 茨城県立県民文化センターの管理運営事業

県民文化センター利用者のニーズに応え安全で快適に施設が利用できる管理運営に努める。

〔指定管理部門（公1）〕

県民文化センター利用者数600千人，利用料金収入103,545千円を目標とする。

(施設利用計画)

事 項	利用者数	利用日数	利用料金収入	利用率
大ホール	254,740人	259日	60,921,043円	81.2%
小ホール	74,200人	233日	11,369,940円	79.8%
集会室（6室）	107,400人	330日	7,178,680円	94.0%
分館集会室	39,500人	302日	12,075,841円	86.9%
和室	4,160人	162日	1,477,085円	46.0%
一般展示室	64,000人	291日	6,365,295円	82.2%
県民ギャラリー	56,000人	209日	4,158,020円	59.0%
計	600,000人	1,786日	103,545,904円	75.6%

※ 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

(ア) 1月限定割引による利用促進

閑散期の利用促進を図るため、1月限定の施設利用料金割引を継続して実施し、ホームページを中心とした情報発信により当割引について周知する。（大ホール、小ホール、一般展示室、県民ギャラリー及び和室の施設利用料の50%割引（付帯設備を除く））

(イ) 新規利用者（団体等）への誘客及びリピーターの確保

ホームページのリニューアルや催事及び施設の空き情報等の最新情報の更新、利用団体へのダイレクトメールの発送などにより利用促進を図る。

なお、日刊紙や情報誌等への効果的な広告掲載及びマスコミを利用した催事等の話題提供のほか、近隣市町村の集客施設及び関係各団体等への催し物ご案内（情報紙）の配布（毎月1万1千部発行）を行い、来館者の利用促進に努める。

(ウ) 各団体との連携強化

関係各団体等との連携を強化し、利用促進に努める。

- ・ 茨城文化団体連合など各文化団体等との連携強化。
- ・ 茨城県公立文化施設協議会及び全国公立文化施設協会との連携による加盟施設間との情報共有。
- ・ 県民文化センター友の会との連携によるチケット販売促進及び会

員の利用促進。

- ・ 茨城県及び水戸観光コンベンション協会等各関係団体との連携による全国規模や地域ブロック規模の大会等の誘致及び利用促進。

(エ) サービスの向上

会場受付及びチケット販売業務の平日の営業時間を午後7時まで延長し、より一層の利用者へのサービス向上を図る。

なお、利用者の主催者双方を対象とする利用満足度調査（アンケート調査）を随時実施し、利用者の要望等を分析したうえ、改善が可能な案件については速やかに改善処置を行うなど、迅速な対応に努める。

また、利用者等の要望及び対応について、ホームページに公開し情報を提供する。

さらに、応接研修の受講などにより職員のさらなるスキルアップを図り、より利用者のニーズに合った対応を心掛け、サービスの充実を図る。

(オ) 県民文化センター友の会の運営

現在2千人以上の会員数を擁する県民文化センター友の会は、県民文化センター事業及び県民文化水準の向上に大きく寄与していることから、今後もチケット割引事業や、観劇会及び旅行研修会の開催を継続して実施し、会員の確保及びサービスの充実を引き続き図る。

(カ) ワンコインコンサートの開催

低価格（500円）の入場料金設定により、気軽に身近で生の音楽演奏に親しんでいただくことを目的としてワンコインコンサートを開催する（計6回）。

平成29年度は、アンケートで要望が多い邦楽ジャンルを取り入れるなど、来場者のニーズに合わせて実施するとともに、県内出身の若手演奏家を出演者に起用し、発表の機会及び演奏経験の場の提供を図る。

開催回	開催日	内容及び出演者
第16回	4月16日（日）	津軽三味線と民謡・手踊り 出演者 廣原 武美, 柿崎 竹美 佐山 こうた
第17回	7月8日（土）	ジャズギターとボーカル 出演者 山田 よしお, 愛田 美樹
第18回	8月6日（日）	フルートソロ 出演者 菊池 洋子 ほか
第19回	11月25日（土）	ファゴットソロまたはユニット 出演者 泉田 章子 ほか

第20回	1月予定	声楽 出演者 未定
第21回	3月予定	ピアノソロ 出演者 渡邊 真亜子

(キ) スタインウェイを体感しようの開催

県民文化センターが管理するスタインウェイ社製のフルコンサートピアノの有効活用を目的として、希望者に無料で演奏する機会を提供する（計7回）。また、大ホールの空き日で開催することで施設の利用促進を図る。

開催回	開催日
第15回	4月16日（日）
第16回	5月6日（土）
第17回	7月2日（日）
第18回	9月29日（金）
第19回	12月2日（土）
第20回	1月20日（火）
第21回	2月または3月

イ 安全・安心で快適な施設づくり

(ア) 施設整備計画

施設の老朽化の抑制及び長寿命化を図るため、県と協議のうえ修繕計画を策定し、計画的な修繕を実施する。

また、危険箇所の早期発見及び事故の未然防止に努め、緊急性の高い修繕箇所については優先的に修繕を実施し、迅速な対応に努める。

なお、本年度は大ホール楽屋モニター設置工事、小ホール通路照明LED化工事等のほか、県施工として小ホール照明工事、（仮称）練習室設置工事等を実施する。

a 施設の利用満足度調査結果を利用者の声としてとらえ、優先して不具合等の解消に努める。

b 環境への配慮に努め、省エネルギーの推進、ゴミの分別化や削減等に取り組むほか、偕楽園公園に隣接する施設として環境美化に努め、適正管理を行う。

c 障害を持たれた方や高齢の方々が来館した際には、利用者目線に立った親切で丁寧な案内誘導を行い、施設を快適に利用できるよう努める。

また、催し物に合わせた障害者専用駐車場の臨時増設や、案内誘導板

の改善など、より利用しやすい施設となるよう取り組む。

#### (イ) 危機管理対策

東日本大震災で得た教訓を活かし、火災訓練のほか、大規模地震を想定した避難訓練等を実施し利用者の安全確保に努める。また、危機管理対応マニュアルの見直しを常時行うとともに、災害発生時に迅速かつ安全に行動が出来るよう職員をはじめ委託業者及び入居団体職員等関係者への周知を徹底する。

- ・ 避難訓練の実施（年2回実施。火災及び大規模地震を想定）
- ・ 危機管理対応マニュアルの常時見直し
- ・ A E D（自動体外式除細動器）の管理及び操作方法習得の徹底
- ・ 火災、地震発生時の対応のほか、不審者への対応、風水害・傷病等の対応
- ・ 大ホール催事等開催時の緊急事態への敏速な対応のため、別途警備員を1名以上配置
- ・ 関係各団体との連絡体系の整備

### 3 収益事業1（県民文化センター自主事業）

#### (1) グリル事業

グリル・売店は文化センター利用者の利便施設としての役割を踏まえ、利用者のニーズを把握し、営業形態やコストの見直し等により、経費削減を図りながら健全経営に努める。

また、応接マナー研修を実施するほか、県産品を取り入れた季節メニューや自家製弁当の提供等によりサービスの向上を図る。

なお、グリルの今後のあり方を検討するための利用者アンケート調査についても継続して実施する。

#### (2) 駐車場事業

県民文化センターをはじめ、千波公園や茨城県近代美術館に訪れる方が利用する千波公園・県民文化センター前駐車場について、より安全で快適に利用できるよう適切な管理運営に努める。

また、駐車場管理業務の簡素化を目的として、駐車料金自動徴収機の設置について、類似施設等の調査を引き続き行う。

・ 利用台数計画 143,200台

### 4 公益目的事業2（水族館事業）

#### (1) 水族館の運営

水族館は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境を通して、生物の多様性や自然環境、地球



環境について楽しみながら学ぶという、教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営する。

また、水族館が本来持っている[展示][普及][研究]の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして次の機能を持たせた施設として運営する。

- ア 「驚き・不思議・発見・楽しさ・やすらぎ」のアミューズメント（娯楽）要素を持った観光レクリエーション施設
- イ 地域の文化と経済に貢献する拠点施設
- ウ 海を通じた環境教育の場としての生涯学習施設
- エ 自然保護と種の保存に関する実践・研究施設
- オ 入場者計画 総入場者数 1,138,000人

平成29年度は、さらなる飛躍を目指し、入場者増を図るため、季節毎の様々な事業や生物展示の情報から「大洗水族館の魅力発信」を積極的に行っていく。

集客対策としては、最重点地域としている茨城県と栃木県のほか、今後集客が期待できる千葉県北部と埼玉県を加えて対策を行うとともに、重点地域である福島県及び群馬県に対しても積極的な広報を行い集客に繋げていく。

また、修繕計画に基づく施設整備について、緊急性のあるものから実施するなど資金の有効な活用を図るとともに安全な施設管理に努め、採算性の視点に立った効率的な予算執行を行う。

## (2) 飼育展示事業

基本テーマに基づき生物の収集を行い、「見て、触れて、遊びながら楽しく学べる」展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての役割を担う。

### ア 魚類展示

飼育生物の展示・飼育・繁殖研究を行い、生物固有の様々な情報を数多く発信することで常に新鮮な話題を来館者に提供する。特に、タスマニア水槽のテーマを「砂地の生物（仮）」に変更し、人気のあるチンアナゴの展示をダイナミックに行うことで誘客促進を図る。

通常展示テーマ以外の生物についても、季節展示やイベント展示などを積極的に行い、フレキシブルに展開する。

生物収集では、サメ類・クラゲ類・深海生物・地元の生物などに重点を置き、漁業者、水産試験場と収集活動における連携を強化し、他の水族館とも生物交換を活発に行い、情報収集を図る。また、新たな展示生物種の開拓に向けて収集基地を立ち上げるべく、候補地調査を行い搬入ルートや手段を構築する。

調査研究では、県内沿岸に來遊するサメ、マンボウ、ウミガメ類の生態調査及び県内に生息する魚類・無脊椎動物の定性調査を行い、それらを展示に供し、県内に生息する生物の知られざる生態を解説に加えることで茨城の自然保護啓発にも努め

る。また、各研究機関との共同研究を積極的に行い、それぞれの分野における最先端の情報を公表することで研究施設としての役割を担う。

また、サメ類の槽内繁殖では、卵生種はもとより胎生種でも繁殖を目指し、さらに、サメ類以外の硬骨魚においても繁殖技術を向上させ繁殖賞を目指す。

#### イ 海獣展示

海獣類の展示・飼育・繁殖・育成に関する研究を推進するとともに、イルカ・アシカオーシャンライブによる能力公開及びラッコ、ゴマフアザラシ、エトピリカ、フンボルトペンギン、カピバラ、カリフォルニアアシカの給餌解説、ペンギンのお散歩タイムを行うなど、動物の生態について、より楽しく学べる形で紹介する。

展示においては、前年度、鳥インフルエンザの影響により人気のあるカピバラ・フンボルトペンギンを展示している屋外エリアを長期に渡り閉鎖せざるを得なかったため、人気企画であるカピバラ銭湯を実施することができず、楽しみにしていたお客様に残念な思いをさせてしまったことから、本年度は鳥インフルエンザの事前対策を行うとともに、カピバラの展示方法についても工夫する。

イルカ・アシカオーシャンライブでは、リピーターのお客様に満足していただけるよう、季節毎に内容を変えるほか、新しいトリックなどを組み込んでいく。

また、閑散期対策として、オーシャンシアター内の照明をLED化し、幻想的な照明演出を行う特別バージョンとして実施し、誘客を図る。

生物の収集では、ゴマフアザラシが高齢化しているためアザラシ類を含めた新規鳍脚類（アメリカオットセイ）の導入準備を進める。

また、カマイルカについても、新規導入を目指し調査を進める。繁殖については、現在妊娠しているバンドウイルカの出産をイルカデモプールで試みるほか、カリフォルニアアシカについても、安定的な繁殖と育成を目指す。

また、フンボルトペンギン及びエトピリカについては、種の多様性維持のため、前年度鳥インフルエンザの影響で実現できなかった他園館との個体及び種卵の交換を計画し実行する。

保護・調査研究については、関係機関との連携を図りながら茨城県沿岸へのストランディング調査活動を引き続き推進するほか、茨城県県北家畜保健衛生所の協力により実施している共同研究を継続する。

なお、イルカ多目的プールについて、建設実現に向けて設計・調査準備を進める。

#### ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から委託を受けた水系展示水槽の管理を適切に行うとともに、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を実施する。

#### (3) 教育普及事業

生物や環境等について、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で発見体験学習、レ

クチャー・展示解説等の活動を進めるとともに、内容については見直しを常に図る。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請による自然観察会や講演会等への講師派遣の他、移動教室を実施する。さらに、教育機関からの実習、職場体験学習や各種団体の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行う。

#### ア 発見体験学習の実施

生き物や自然環境、水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や会員制教室「アクアパル」、「さかなの絵コンクール」等の事業を実施する。自然体験塾については、人気のある水族館ナイトキャンプを4回実施するほか、講座の見直しを反映させた新講座「バック釣り」及び「水族館をつくろう」を開始する。また、大人向けの講座「マスタースクール」を合計4回開催する。

(発見体験学習内容)

名 称	内 容	期 間
(1)自然体験塾	実験観察室での生き物観察や工作, 野外での自然観察会等, 生き物や自然に関する講座を15テーマ, 延べ24回実施。	通 年
(2)マスター スクール	大人向けの上級コース。生き物の生態や特徴の解説及びサメの解剖, 海獣やマンボウの秘密に迫る体験などの講座を年間4回実施。	6・9・11・2月
(3)アクアパル	ポイント制会員クラブ。前年度までの2年間の講座に参加してポイントを獲得した参加者に対し, 会員限定ナイトキャンプ等の特別講座を3回実施。	9・12・1月
(4)さかなの絵 コンクール	入館者(小学生)を対象に, 展示生物を写生する機会を提供し作品展と表彰式を開催。写生会は土曜・日曜で延べ3回実施。	10月
(5)絵てがみ展	旬の食べ物や行事, 花や生き物等, 季節や自然をテーマにした作品展の開催。毎月優秀作品を選考して館内に展示。	通 年

#### イ レクチャー及び展示解説の実施

展示生物や自然環境に対する理解を深めてもらうための解説サービスとして, 入館者を対象に, なるほど魚っちんぐ(お魚発見教室レクチャー), アクアウォッチング(水中対話解説), お食事タイム(給餌解説)及び水族館探検ツアー(バックヤード案内)等の各種プログラムを実施する。

また, 解説員の業務管理や指導, 類似施設研修等を実施するほか, 解説内容の見直しを行い, 話題及び「学べるプログラム」を提供する。

館内混雑特異日には, 水族館探検ツアーに代わり, 自由参加となる「バックヤードウォーク」を実施する。

#### ウ コンピューター情報運用管理

館内の情報端末や館内外へ向けたHPに掲載する展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関する情報発信を行う。HPについてはコンテンツ検索利便性向上のため、随時新たな情報の更新に努める。また、HPのアクセス解析により閲覧者の動向分析やPR効果を評価し、さらに有効な広報媒体作りに活用する。

コンピューターシステム管理については、システム端末等において散発的に発生した動作不良等の各種不具合解消を図り、安全かつ安定した運用に努める。その他、コンピューター機器や解説ソフトの更新計画について検討を行う。

#### エ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として実施しているボランティア活動の支援を行う。年間を通して募集・研修を行うとともに毎月1回役員会を開催し、要望の集約、活動課題、研修計画等の検討・整理を進める。また、6月に総会・研修会、10月に他園館との交流研修、11月に活動発表会「マンボラフェスタ」を開催する。

#### オ 機関誌「Sea 遊」の発行

水生生物等への理解促進、水族館のイメージアップ、広報を目的に、展示生物の興味深い生態やトピックス等、様々な情報を紹介する機関誌を年2回発行し、国内の動物園・水族館や県内の教育機関及び栃木県の小中学校等に配布する。

#### カ 企画展の開催

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生き物や自然環境についての理解を促進するため、下記の企画展の開催及び参加体験型の付帯事業を行う。

(企画展の内容)

名 称	内 容	開催期間
第25回企画展 「ボクらのいきもの図鑑」 ～水生昆虫大集合～	身近な水域で見られる馴染み深い生物たちの知られざる生態を紹介し、驚きと発見をもって生物たちの現状を知ってもらい、環境意識の向上を目指して開催する。	平成29年1月21日 ～5月7日
第26回企画展 「毒展」(仮称)	海洋生物の毒に注目し、生体展示をとおして生き物たちがもつ「毒」とその毒に関わる生物の謎を紹介し、毒に対するイメージを恐怖から深い興味へと転換してもらうことを目的とする。	平成30年1月下旬 ～5月6日 (予定)

#### キ 深海ゾーン・海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの適正な展示機能を確保するため、随時、生物資料の補充や散発的に発生した動作不良等の各種不具合の迅速な解消に努める。また、中期経営計画に基づき、科学館及びお魚発見教室エリアの展示構想の検討を行う。その他、遊具(キッズラン

ド)については、利用者の安全第一を考えた運用管理を行う。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の各種要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして、自然観察会・移動教室等の各種館外活動を行う。

ケ 研修会等の受入れ

教育機関や団体からの要請に応じ、水生生物や飼育設備等をテーマとして、バックヤード見学・館内レクチャー・夜の水族館等の各種館内活動を行う。

コ 実習生の受入れ

社会教育施設、博物館相当施設としての役割を果たすため、学芸員・飼育実習・職場体験学習・インターンシップ等の受入れ対応・調整を行う。

(4) 誘客促進事業

圏央道の県内区間全線開通による広域的な道路整備により、さらに近くなった首都圏を意識して、情報発信と観光業者への広報や各種キャンペーンにより集客を図っていく。

また、道の駅等集客施設を積極的に訪問し、個人客の増加を図るとともに、割引券回収の分析を行い、対象施設等の見直しを進めながら、効果的な誘客に努めていく。あわせて、SNS及び対象者を選択して多様なサイトへ広告可能なインターネット媒体を活用することで、地域や年代など対象としたい方々に対して積極的にアプローチし、効率的な広報を推進する。さらに、各種広報とバス広告及び常磐線特急電光表示板などで情報発信を行い、誘客促進に繋げていく。

夏の特別企画までの催事は、昨年度からの開館15周年記念事業として開催することとし、今年度の特別企画は「カメ」をテーマに実施する。ワニガメやアルダブラゾウガメなどの生体展示を中心に、オサガメなどの剥製なども利用して多種多様なカメを紹介するとともに、それぞれの特徴を分かりやすく解説する。

閑散期には昨年度に実施した「アクア・イルミネーション」を基本とし、イルミネーション設置の範囲を壁泉周辺まで拡大したり、必要に応じて営業時間を延長するなど、今年度より発展させた話題性ある展示企画を実施する。

(催事計画)

催 事 名	期 間
開館15周年記念 GWイベント2017	4/29～5/7 GW期間 延長営業有
開館15周年記念 七夕イベント ・七夕水槽・願い事短冊・館内装飾	6/1～7/7
第42回 動物愛護標語コンクール	7/1～31
開館15周年記念 夏の特別企画「カメ」(仮称)	7/15～9/18

・ワニガメやアルダブラゾウガメなどの生体や、オサガメなどの剥製を中心にした展示	延長営業有
アクアフォトコンテスト2017 ・館内生物の写真コンテスト，表彰式 ・撮影会	募集 5/1～8/31 撮影会 8/19 投票 9/9～9/30 表彰式 10/29
夜の水族館サマーナイト「延長営業」＜那珂湊花火＞	8/11 予定 延長営業有
ハロウィンイベント2017 ・チャレンジゲーム，特設水槽他	9/30～10/31
年間パスポート所持者限定プレゼント	11/1～11/30
アクアワールドクリスマス2017 ・サンタの家，チャレンジゲーム他	11/18～12/25
閑散期対策企画 ・アクアイルミネーションV o 1.2	12/9～2/14
年末・年始イベント ・チャレンジゲーム，干支水槽他	12/28～1/31
アクアワールド開館16周年 感謝祭2018	2/24～4/8

(5) 管理運営部門

ア 入場者状況及び売上状況等各種データの分析を行うとともに、経営調整会議・販売戦略会議・マーケットプレイス連絡会議を定期的を開催するなど、経営状況を随時把握し安定経営に努める。

イ 事務事業の効率化を図るとともに、省エネルギー推進委員会の開催による、更なる省エネ化に積極的に取り組むなど、運営経費の節減に努める。

ウ 建物及び施設設備の腐食や老朽化による修繕箇所増加に対応し、財団の積立金を有効に活用して安全かつ清潔な施設管理を行う。なお、修繕計画に基づき、海獣系循環ポンプ・モーター更新工事や取水設備サイドセパレータ更新などの大型工事を行う。

エ 職員の資質向上と効率的運営に資するため、語学研修等を行い入場者へのサービス向上とインバウンド対策に努めるほか、ストレスチェック制度の導入に伴い、メンタルヘルスケアの充実を図る。

オ 消防訓練のほか地震や津波を想定した避難訓練や、AED救急救命講習等により、職員の危機管理意識や危機対応能力の向上を図るとともに、個人情報保護や、マイナンバーの入力管理の徹底などコンプライアンス遵守に努める。

カ 繁忙期の駐車場確保対策として、大洗第4埠頭の借り上げ及びシャトルバスの運

行に加え、隣接する大洗公園駐車場の弾力的な借上げ運用により、駐車場の確保と周辺道路の渋滞緩和に努める。

キ 生物飼料の残滓リサイクル実験における分析結果を踏まえ、製造された残滓肥料再資源化の取り組みについて周知を行うとともに、花木及び農産物生産を行う専門機関に配布して有効活用を図る。

## 5 収益事業2（水族館売店事業）

### 売店の運営

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門及び水族館内のコーヒーショップ、ミュージアムショップの運営を行う。各ショップではオリジナル商品や地域商品の販売を行い、水族館の収入確保に努める。また、開館15周年記念オリジナル商品の販売を行い売上げ増に努める。

### ア マーケットプレイス物販部門「モラモラ」の運営

開館15周年を記念したオリジナルデザインの商品や、メインキャラクターのピルル・ブルルをはじめとするオリジナルキャラクター商品の販売促進に努めるほか、企画展イベントなどとタイアップした関連商品の販売を行い、売店利用の向上を図る。また近年進めている店舗什器照明のLED化を推進し、環境にも優しい店舗づくりを行う。

### イ コーヒーショップ「マーメイドギャラリー」の運営

開館15周年記念新規メニューの販売やイベント等に合わせたメニューの開発、季節に合わせた限定メニューを取り入れ収益の確保に努めると共に、憩いの場の空間を提供することにより来館者に愛され親しまれるショップ運営に努める。

### ウ ミュージアムショップ「ガレオス」の運営

サメ関連商品を中心に専門性のある商品を充実させることにより、「モラモラ」との差別化を図りながら売上げ増を図る。